

計画調査に関する進め方について	<ol style="list-style-type: none">1. PDCA サイクル（順応的管理）について<ul style="list-style-type: none">・ 自然的環境の応答性は不明確な部分があるため、途中で目標に対する計画を見直すことは必要である。・ 予算的また技術的に可能かどうかを含めて、計画を実施していく中でその方法論を決定していく必要がある。
琵琶湖の現状及び変化について	<ol style="list-style-type: none">1. 琵琶湖の価値について<ul style="list-style-type: none">・ 琵琶湖の価値は、国連が提唱する生態系サービスという概念における4つのサービス（供給、調整、文化的、基盤）に類型化して整理するとわかりやすくなる。2. 水質保全について<ul style="list-style-type: none">・ 透明度は、大正時代頃からデータがあり、近年は確実に改善傾向にあることが確認される。参考資料として提示する必要がある。・ 水質については、過去からのトレンドとしては改善傾向にあり、プランクトンの種組成等が変化し、難分解性物質などこれまでの対策では対応できない問題が生じているという認識を持って説明を行う必要がある。3. 水源かん養について<ul style="list-style-type: none">・ 森林被害は、野生鳥獣や病害虫に加えてナラ枯れによるものも考えられる。4. 自然的環境・景観保全について<ul style="list-style-type: none">・ 魚類等の移動経路の分断は大きな課題であるため、課題として追加する必要がある。・ 従来からの課題に対して様々な施策が実施されてきたが、施策が量的に十分でなかったり、それでは対応できないもの（例えば、新たな外来生物の侵入など）が発生してきたことを、新たな課題として記載する必要がある。

第1回 琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会

計画の基本的事項の精査について	<ol style="list-style-type: none">1. 第1期と第2期で大きく変化している点について<ul style="list-style-type: none">・ 地球温暖化等により新たに共通して発生すると考えられる課題を追加する必要がある。
第2期計画に向けた方向性と目標の検討の考え方について	<ol style="list-style-type: none">1. 保全3分野に場という視点を加えることについて<ul style="list-style-type: none">・ 場という視点を加えることは良い考え方である。・ 場の区分、特に湖内や湖辺域の区分の考え方が重要である。2. 目標・指標について<ul style="list-style-type: none">・ 第2期計画では、目標を明確化し、指標についてしっかりと議論する必要がある。・ 指標については、これまで例えば面積等で考えていたが、今後は生態系の機能についても考えていく必要があり、そのための知見を蓄積することが必要である。